

郷土館発 南と北を結ぶ

III

郷土館所蔵の観光パンフレットです。



内側には地図があつて、旧鳳来町と北設楽郡の主な観光地が記載されています。『津具スキー場・丸山スキー場(津具)・添沢温泉・神田温泉(バンガロー村)』という表記があり、観光の目的地として紹介されています。

新名古屋からの電車とバス路線も描かれており、新名古屋を朝六時四十分に出ると津具ス

ケート場に十一時三十五分に到着、交通費は、名鉄電車と豊鉄バスを使って往復七百円と書かれています。また、津具スキー場まで『三河田口駅下車豊鉄バス一時間二十分』とも書かれています。宿泊は、旅館一泊二食四百円、民家三百円とあります。

このパンフレットの年代は特定できませんが、掲載されている津具スキー場の開業は昭和二十七年で、田口線が豊橋鉄道となつているところから昭和三十一年以降と考えられます。

一般の人を対象とした観光開発は、第二次世界大戦後になつて広く行われるようになりました。そこでは、交通手段である鉄道やバスが重要な役割を占めています。このパンフレットが発行されて以降、様々な形で鉄道会社が力を入れ、昭和三十年代後半では、スキー場を例にとると、豊橋からの直通バスが運行されるようになりました。しかしそこには別の影響も出ました。

『昭和三十九年までは、スキー場来場者の民宿人員が二十%を占めたが、昭和四十年になると十%に落ち込んだ。これは、家用車の増加とバス運行によるものであった。』(津具村誌)

今から六十年以上前の奥三河の観光開発の様子がわかるパンフレットから、たくさんのご縁を紐解くことができます。

(奥三河郷土館長

渡邊 俊也)